

5-1

主題 ユニットケアにおけるシェーマ（図解）活用法

シェーマ

副題 施設ケアマネジャーから見た個別ケアシステム展開への模索

個別ケア

研究期間 3ヶ月

事業所 特養 うきま幸朋苑

発表者：川崎 初美（かわさき はつみ）

電 話 03-5914-1331

メール kawasaki-h@kohoen.jp

FAX 03-5914-1350

URL http://www.kohoen.jp

今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

東京都北区で、初の完全個室ユニット型特養として4年目を迎える。各階38名（4ユニット）3フロアあり、今回は1フロア内の片側チームについて担当した内容について述べる。保育園・就労支援施設・在宅事業所を併設する複合施設であり、世代間交流やイベント、アクティビティメニューは潤沢にあり最近では浮間地域の商店・消防などとの交流も深めている。

《研究前の状況と課題》

苑内での生活場面で接するとき、個々の特徴を把握し、職員間での統一ケアに役立てて行く手段としてケアプランがある。その内容を見たときに、食事・排泄・入浴・運動・余暇活動など、項目ごとには明確に書かれているが、項目同士の関連性や重要度・優先度は漠然としたものであることが多い。

また、職員間でコミュニケーションを取る場合にも、自分が担当した方に対する思い入れが強く現れてしまい、関わり方に温度差を感じる事が多い。そして、個々の特徴を捉えた後で、実施に移す際に集団対応での限界に陥り、やりたい事と出来ることのギャップに苦しみストレスに感じてしまうことが見られる。このように、①課題同士の関連性と優先順位の不明確さ、②職員間のケース毎に生じる温度差、③実施場面での応用性の低さが担当チームの課題である。

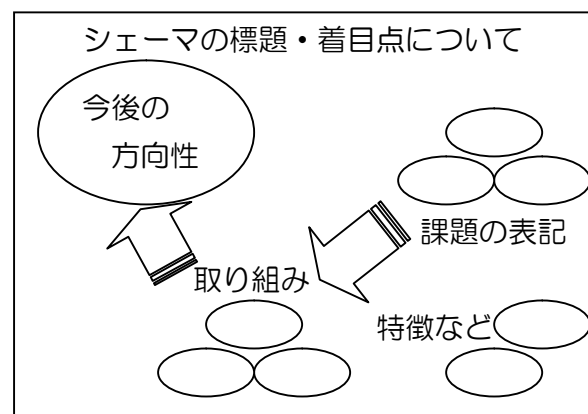
《研究の目標と期待する成果》

このような課題の根底には、しっかりとアセスメントしているにも関わらず、全体像を捉え、解りやすく説明することが出来ていないからではないか？との思いで、シェーマ（図解による見える化）を作成することで、他者への説明能力と全体把握力の向上を期待して課題解決に取り組んだ。（①②の改善）さらに、シェーマ同士を比較し、チームの持つ課題の特徴を把握することで、実施に向けた応用性を磨いていくための道具を作り出していく取り組みを行なった。（③の改善）

シェーマ作成の副産物として、①ユニット毎の特徴を明確に出来ること。②フロアを越えたアクティビティ企画の根拠を提供出来ること。③ショートステイでの再利用者に対する課題把握に役立つこと。の副産物3点も応用できる形に作り上げたい。

《具体的な取り組みの内容》

平成22年5月開始、ケアマネ前任者より引継ぎ担当フロアが決定する。2ユニット計20名のケアプランを確認する。ユニットリーダー2名、フロア担当主任との打ち合わせをおこなう。1ユニット10名のシェーマを作成する。ケアプラン委員会にて、シェーマの説明と活用法を提案する。ユニットリーダー会議にて、作成研修に向けた検討会を持つ。（ケアプランに対する方式の整理と方向性の統一化を議論する）担当フロアにておこなうカンファレンス準備の際に、居室担当者との調整で、シェーマを利用した方向性の確認作業に対して試行的に活用する。6月までに3名実施。カンファレンスにて、ご家族へ説明する際に要点整理するために活用する。シェーマ1枚作成にかかる時間は、30分。アセスメントおよび普段の様子の記録は、居室担当者があらかじめ作成してある物を活用する。下記にシェーマのイメージを示す。



《取り組みの結果と評価》

詳細なアセスメント結果を1枚のシェーマに要点を絞り込み、担当者および関係者の理解を進めていくために役立った。居室担当者が、ケアプラン作成の際に全体像を描きながら多くのアセスメント情報を整理するために役立った。試行的な取り組みとしては、良好な結果を導いている為、取り組みを継続させ、ユニットごとの特徴、チームとしての関わり方、フロアを越えたケア実施計画に落とし込む作業が必要。

《まとめ》

1. 2ユニット20名のケアプランを閲覧
2. ユニットリーダー、主任との協議
3. シェーマ作成
4. ケアプラン委員会での提案（研修計画）
5. ケアカンファレンスでの活用
6. ユニット毎の特徴を抽出
7. チーム・フロアとしてのケア実施計画
8. フロアを越えた情報共有化へ発展

《参考文献》

- 【書籍名】見える化 強い企業をつくる「見える」仕組み
- 【著者・出版社】遠藤 功 東洋経済新報社
- 【書籍名】トヨタ方式で成功する企業改革
- 【著者・出版社】正木英昭 秀和システム

《提案と発信》

シェーマでの全体像把握は、取り組む瞬間を写した写真のようなもので、同じ人物でも違う絵が描かれる。シェーマの作成のコツをまとめ、どの施設でも手軽に活用できるよう普及させて行きたい。そして、今回の当苑での異なるフロア間交流よりも広く、施設間交流につなげて行きたい。ショートでの取り組みを発展させ、在宅分野での連携にも活用させて行きたい。

【メモ欄】